
ぼくの日記

ひめい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくの日記

【Nコード】

N3622I

【作者名】

ひめい

【あらすじ】

グロ注意

男の子の日記

今日面白いことがおこった。

太郎君が包丁で隣の席の富江ちゃんを刺し殺した。何回も何回も富江ちゃんの体に包丁が突き刺さった。

教室に富江ちゃんが撒き散らされた。

先生は富江ちゃんをミンチにした太郎くんは何も言わなかった。

先生は教室の隅のゴミ箱で吐いていた。

僕は、さっきまで算数の授業をしていたのにこんなことになったのは変だなあと思った。

太郎くんも算数の授業の前は普通に僕たちと昨日のタイガースの結果についてぎろんしていたのだ。

富江ちゃんをミンチにしていた太郎くんは僕は殺人鬼ですという目をしていた。

じゃあ、給食当番めんどいよなって僕に言った太郎くんや、かけっこで1等になってブイサインをした太郎くんはどこにいったんだろう？。

包丁をもって富江ちゃんを

漫画やインターネットでよく見るグロ画像にしている太郎くんは普段の太郎くんと違った。

富江ちゃんが太郎くんバラバラにされてるあいだ、みんな机に座って大人しく見守っていた。みんな、動いたら太郎くんに殺されるかもしれない。と思っていたのかもしれない。

警察呼ぶよ！と太郎君に言った、女子の学級委員長が実際に首を切られた。学級委員長はひいと叫んで教室を出て行った。太郎君はそれを追いかけていった。

「富江ちゃん好きだったのになあ。」

隣の席の加藤くんが教壇の上でめちゃくちゃになってる富江ちゃんを見ていった。

富江ちゃんの血液が教室の床や壁を真っ赤に塗りとくっついていて、教室はサスペンスドラマの舞台みたいになっていた。所々内臓とか、骨？みたいなのがあった。

「富江ちゃん可愛かったのにもったいないよな。」加藤くんは僕にそういって、立ち上がった。

ちよっと、動いたら太郎君に殺されちゃうよ。と僕が言った。「教室のドアみとけ。太郎が戻ってきたら俺に言えよ、ダッシュで戻ってくるから。」

と加藤くんは血溜まりを跨いで、富江ちゃんのミンチへ向かった。加藤くんはグジャグジャになった血と内臓の固まりをかきまわして、富江ちゃんの頭らしき部分を見つけ出した。

「太郎のやつ顔だけは傷つけられなかったみたいだな。」

加藤くんは真っ赤な固まりをぎゅっと抱きしめた。

「俺、実は富江のこと好きだったんだ。あいつすごい可愛いもん。」うっとりした感じで血まみれの加藤くんが言った。

「俺も実は好きだったんだ。」

前から3番目の竹下くんが加藤くんにそういって富江ちゃんのミンチに向かった。

「富江美人だったよな。でも顔の部分加藤が取ったのか。仕方ない、指もってかえろう。」

竹下くんは富江ちゃんのミンチの中から指の部分を探し始めた。

男子が続々と立ち上がった。みんな富江ちゃんが好きだったみたいだ。女子は算数の教科書を見たり、下をむいたりして見てみぬふりをしていた。

男子はミンチの中から

「俺臍臓。」

「俺大腸。」

「俺胃袋。」

といった要領で次々と富江ちゃんの体を採っていった。

僕は、自分の席に座って、赤く染まった男子たちが肉片を手にして万歳しているようすをみていた。

加藤くんが僕に小さな丸い玉を投げてよこした。

富江ちゃんの眼球だった。

僕はそれを口に入れて舐めた。

僕も富江ちゃんが好きだったのだ。

教室のドアで斎藤先生が立っている。

教室に入れないようだ。先生は立ったままオシッコをしているようだ。

何か先生にからかいの言葉を投げかけようと思ったが、僕が入って
るサッカー部の監督で、後で怒られるのが怖いから
何か言うのを止めた。

救急車の音が聞こえる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3622i/>

ぼくの日記

2010年10月9日00時14分発行